

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 389 回 研究会

日時 令和 7 年 9 月 17 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分
場所 奈良中央信用金庫 3 階 ホール
講師 株式会社 協働日本
代表取締役社長 村松 知幸 氏
テーマ 「変化の時代を捉える企業変革」
~外部と内部の融合と超生産性組織への進化~

最初に、芳仲会長より開講の挨拶があり、「DXは今後の課題であり、人材不足や物価高に対応するには組織変革の必要がある。経営者である我々が先頭に立って実践していかなければならない」と話される。今回は昨年のならちゅうしん経営研究会総会で講演頂いた株式会社協働日本の村松知幸氏をお招きして「変化の時代を捉える企業変革」と題して企業変革の必要性と労働付加価値生産性を上げる手法についてお話頂きました。

最初に株式会社協働日本の取組みについて説明され、地域企業と協働プロと(株)協働日本がチームとなって経営課題解決に取組み、通常は1年後を目途に地域企業が単独で行けるようお手伝いする手法について話されました。

そして、「必ず来る変化」として人が商圈から大幅に減少するのは確定的なことであり、対応策は「企業変革」しかありません。企業がやるべき事は生産性を上げることであり、『生産性=粗利/労働量』の方程式の中で、粗利を追求(売上の増加・コストの削減)するよりも、労働量の追求(AIの活用・外部の『知』の活用)する方が効率的ですよと解説されました。

DXといってもその機能を入れただけでは変わりません。まずは組織の「視座」を高める必要があります、無理にDXを進めると組織の抵抗が起こってしまうので、変化を受け入れるコンディション作りが肝心です。「視座」を高める為には、経営者は会社の未来について考え、経営者と現場の間に立つ部長・課長の「解釈・解像度」を高めることが重要です。現場のコミュニケーションの質や組織力を高めないとDXは進まないと言われ、今回の講演が変化の起点となってもらえたら幸いですと話された。

また、株式会社協働日本は令和7年度奈良県中小企業デジタル化等支援事業の業務委託が決まっておられ、デジタル×経営実践を推進する勉強会5回と伴走支援6回がセットとなった特別プログラムについて、9月30日(火)まで申込受付中と案内頂きました。現在10社の枠に対して20社の申込があり、内容を精査した上で最終は奈良県が採択することになるとの事です。

参加者は自社の組織の視座を高めるにはどうすべきか、先ず何をすべきかについて考える機会となり、今回の講演が変化の起点となったのではないかと思います。

以上



芳仲会長 ご挨拶



講師 株式会社協働日本 村松 知幸 氏